

ビオトープフォーラム in 滋賀2018

—里山を守り、里山を育てる—

実施報告書

日時：2018（平成30）年6月1日（金） 13:00～16:45

場所：滋賀県立琵琶湖博物館ホール（滋賀県草津市下物町 1071）

主催：特定非営利活動法人日本ビオトープ協会

共催：滋賀県立琵琶湖博物館、自然環境復元学会、滋賀ビオトープ研究会

後援：環境省、国土交通省、農林水産省、文部科学省、
一般社団法人・職業訓練法人滋賀県造園協会〈順不同〉

◆フォーラム参加者 計 120名

官庁、共催・後援関係 協会員	19 45	名 名	環境団体関係 学生・学校関係者	7 7	名 名	一般 造園団体・造園業者	23 19	名 名
-------------------	----------	--------	--------------------	--------	--------	-----------------	----------	--------

◇総括

「ビオトープフォーラム in 滋賀 2018」は、今年度で設立 25 周年を迎えた協会の記念すべき年に、ここ滋賀県で開催できますことは大変嬉しく、ご尽力をいただきました地元会員、そして快く会場のご提供と、基調講演をいただきました滋賀県立琵琶湖博物館館長篠原様始め皆様方、特別講演をいただきました武村様に心より感謝申し上げます。

本年度テーマは「里山を守り、里山を育てる」として、初夏の風薫る琵琶湖博物館を会場に、東北から九州まで全国の同志を集め盛会となりました。また、例年通りフォーラムに先立ち昨年度の優秀なビオトープを顕彰する表彰式が行われました。

フォーラム開会にあたり櫻井淳会長より、協会発足 25 周年の総会フォーラムが、滋賀県の地で開催でき、滋賀県立琵琶湖博物館の絶大なご協力により開催できますこと、また、ご講演いただきます篠原館長様、元滋賀県知事武村様に謝意を表し、多様化する生態系インフラストラクチャー事業の社会的要請に寄与するため、地域の自然環境の保全・復元・維持管理の現場で活躍する技術者・ビオトープアドバイザー養成に力を入れると共に、全国 820 名を超えるビオトープアドバイザーネットワークの充実を図り、日頃の研究に加え現場実践を通じて、地球環境の保全に貢献する活動を力強く継続する事等が話され、会員の協力、顧問の先生方のご指導、関係各位のご理解ご支援に謝意が述べられました。

開催にあたり諸官庁などのご後援いただき、ご臨席いただきました滋賀県琵琶湖環境部部長・廣脇正機様に、ご来賓を代表して滋賀県知事・三日月大造様のご祝辞を下記代読いただきました。

滋賀県知事 三日月大造様 ご祝辞

本日、「ビオトープフォーラム in 滋賀 2018」が盛大に開催されますことをお祝い申し上げますとともに、全国各地からお越しいただいた参加者の皆様を心より歓迎いたします。開催地を代表いたしまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本フォーラムが本県で開催されるのは実に 11 年ぶり、2 回目とっております。今回のテーマにもごさいます「里山を守り、里山を育てる」という考え方からすると、ここ草津市やその周辺、いわゆる琵琶湖の南湖一帯は非常に都市化が進展した地域であり、人と自然との調和は大変重要な課題となっております。そのような中、「里山を守り、里山を育てる」をテーマに本フォーラムが開催されることは大変意義深いものと感じております。

人口減少と長寿社会が同時に進行するなか、本県では「健康しが」をキーワードに、「人の健康」、「自然の健康」、「社会の健康」の3つに注力することにより、持続可能な共生社会への確かな歩みを進めてまいりたいと考えています。その中で、琵琶湖やその水源の山々をはじめとする「自然の健康」については、琵琶湖保全再生法の制定を受け、琵琶湖を「活かす」「守る」「支える」取組を関係者の皆様と連携しながら積極的に進めているところです。

その取り組みの一つとして、本県では今年度より「下物（おろしも）ビオトープのにぎわい創生事業」をスタートいたしました。本事業では、この琵琶湖博物館のすぐ近くにある「下物（おろしも）ビオトープ」の環境整備を進めるとともに、環境教育や地域活性化、観光振興などを目的として様々な主体が関わりあいながら、ビオトープを中心とした活動の輪を広げていこうと取り組んでいるところであり、皆様からも御意見やアドバイス等いただけましたら幸いです。

結びに、本日のフォーラムが、参加者皆様の各地域での実践に資する収穫の多いものとなることを願い、日本ビオトープ協会のご発展と本日御参集の皆様のさらなる御健勝と御活躍を祈念いたしまして、お祝いのことばいたします。

第 1 部では、「第 10 回ビオトープ顕彰」表彰式が行われ、ビオトープ顕彰委員会委員長である横浜国立大学前学長・鈴木邦雄氏の講評と、本年度の各受賞者に櫻井会長から表彰状授与が行われました。引き続き事例発表が行われ、①「住友ベークライト・ビオトープ『憩いの杜』」②「湯屋のヘーベルビオトープ」③「比治山大学短期大学部付属幼稚園『ひじやまビオトープ』」3 件のそれぞれの地域性を生かした素晴らしい活動事例が紹介されました。（発表資料：別紙フォーラムレジュメ資料集に掲載、顕彰講評・受賞紹介一覧：協会 WEB に UP）

第 2 部は、滋賀県立琵琶湖博物館館長・篠原徹様より「暮らしの民俗自然誌」と題して基調講演をいただきました。「人と自然の関係についての民俗学的研究者」亜熱帯林のひととの関係を調査された事例から「自然を生かす」「自然をたわめる」「自然を変える」そして「自然を創る」と言う 4 つのレベルでの興味深く、我々の

活動に於いても参考になる多くの事例をスライドを使ってご講演頂きました。最後に琵琶湖の自然の改変について、明治以降の大中の湖干拓についてご紹介頂きました。信長の安土城は、水に囲まれていて、湖から出陣する事も計画にあったとの興味深いお話もありました。(講演資料：別紙フォーラムレジュメ資料集に掲載)

続く特別講演においては、元滋賀県知事、元大蔵大臣の武村正義先生から「琵琶湖から世界へ」-環境問題を考える-と題してご講演いただきました。先生の生い立ち、自然豊かな滋賀県での生活など興味深く、環境への造詣はこの頃に培われたと思われます。知事として「琵琶湖富栄養化防止条例」を制定、世界湖沼会議を開催するほか、環境教育の重要性を具体的に学習船「湖の子号」を作るなど、当時赤潮などで問題となった琵琶湖の汚染解決に力を注がれ、国政に進出しても、環境部会で活躍され「環境省」「環境基本法」の制定に関わられました。「人類の将来は人間と自然の関わりにかかっている」との言葉は強く心に残りました。

(講演資料：別紙フォーラムレジュメ資料集に掲載)

閉会の辞は、協会相談役・近畿地区委員長の西川勝理事よりフォーラム参加者と関係者への謝意が述べられ閉会しました。なお、フォーラムの司会進行は、びわ湖放送・川南寿賀子さんにお引き受けいただき、盛会裏に終了することができました。

このフォーラムを通じて、地球環境の改善・生物多様性社会・いのちを知る環境学習・コミュニティづくり等の重要性を再認識し、当協会の役割と責務の大きさを実感いたしました。今後も自然との共生をめざした活動を推進し、持続可能な地域づくりに貢献して参ります。

最後に、皆様のご協力に対し心より厚くお礼申し上げます、今回得られた知識・技術を各地で生かして活動されますことをご祈念申し上げます。

2018年6月吉日

—別紙レジュメ資料集の通り、盛会にて終了いたしました—

「ビオトープフォーラム in 滋賀 2018」の様子



第1部 顕彰表彰・講評・事例発表



第2部 基調講演、特別講演



2日目見学会の様子



滋賀県立琵琶湖博物館、草津市立水生植物みずの森 見学